

平成25年度第5回東北低コスト導入促進協議会

『低コスト造林に向けた岩手県の取組』



岩手県農林水産部森林整備課

平成26年1月28日(火)

お話する内容

1 岩手県の森林の状況

- ① 森林資源の状況
- ② 造林実績
- ③ 課題

2 低コスト造林の取組

- ① 低密度植栽の促進
- ② コンテナ苗木の利用促進
- ③ 森林所有者及び林業事業者への普及

3 おわりに

①森林資源の状況

○ 本県の総土地面積は、**約153万ha**

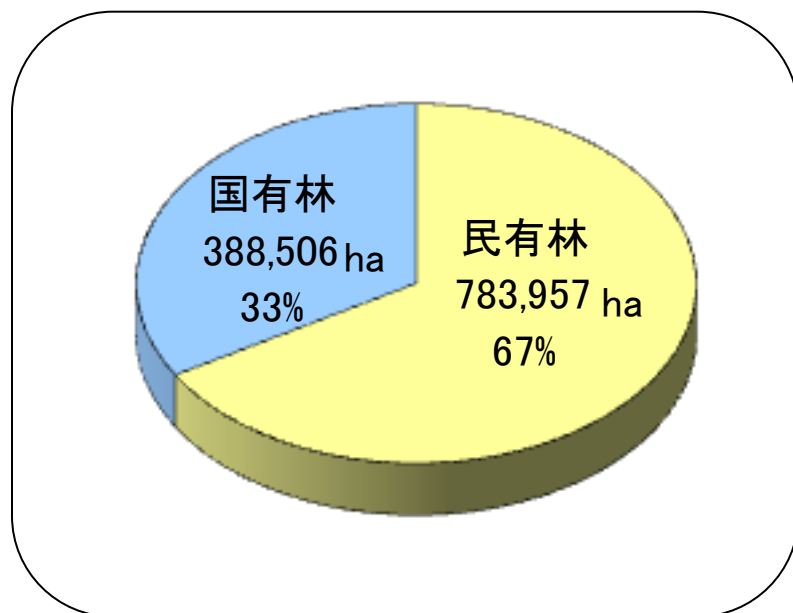
このうち、**77%**を占める **約117万ha が森林**（人工林率42%）

⇒北海道に次いで2番目（全国森林面積の約4.7%）

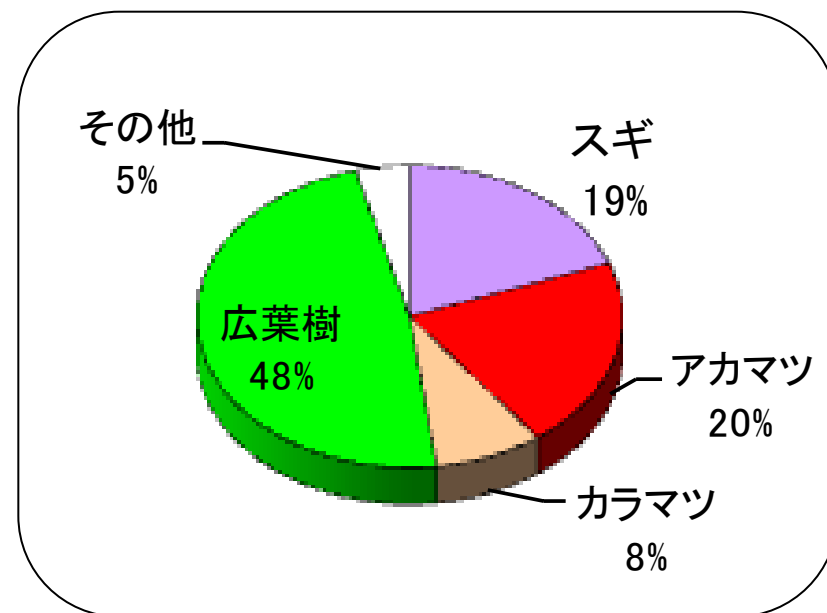
○ 森林面積117万haのうち、**全体の67%は民有林(78万4千ha)**

国有林は全体の33%（38万9千ha）（平成24年3月31日現在）

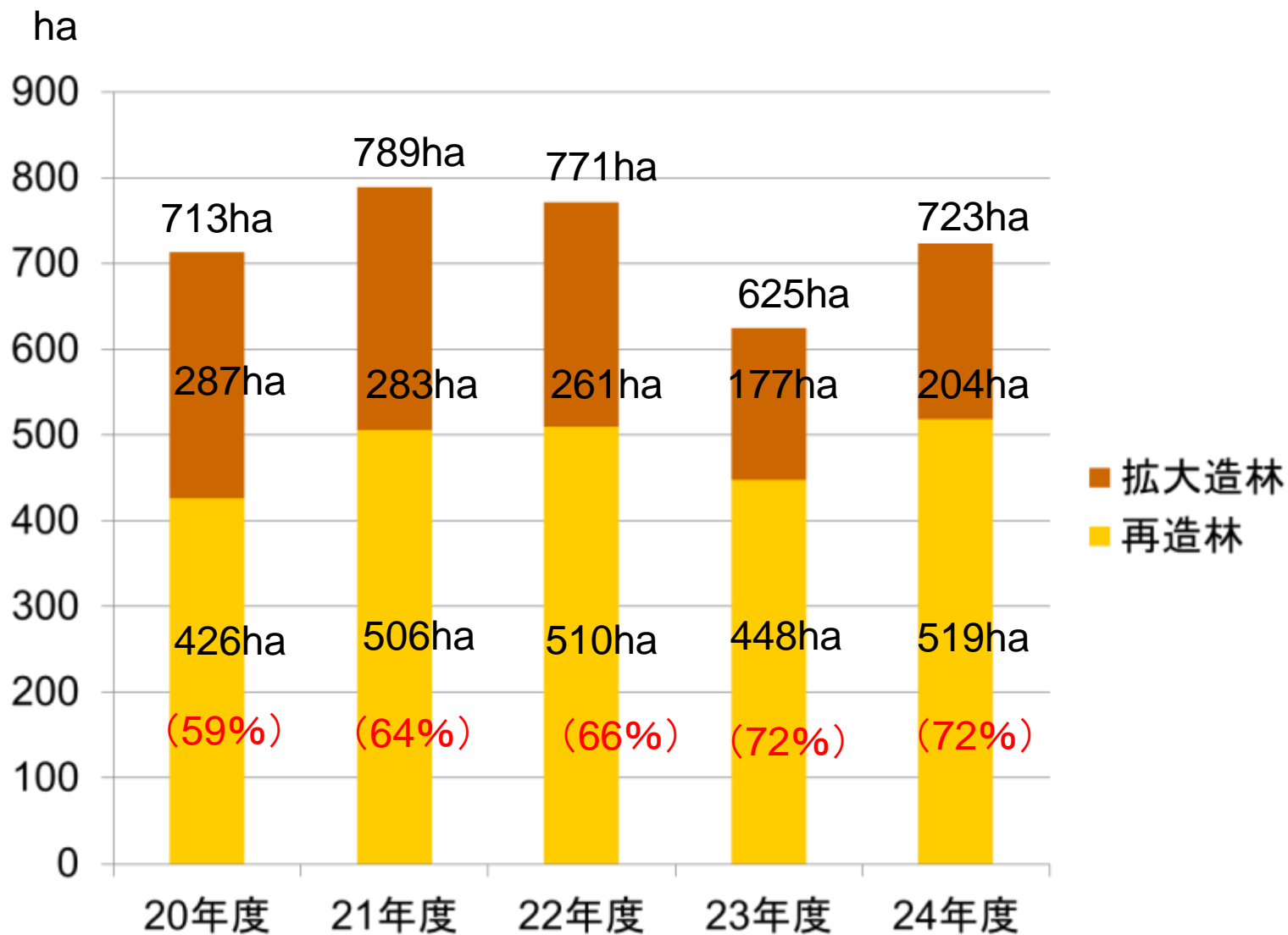
【森林の所有別面積】



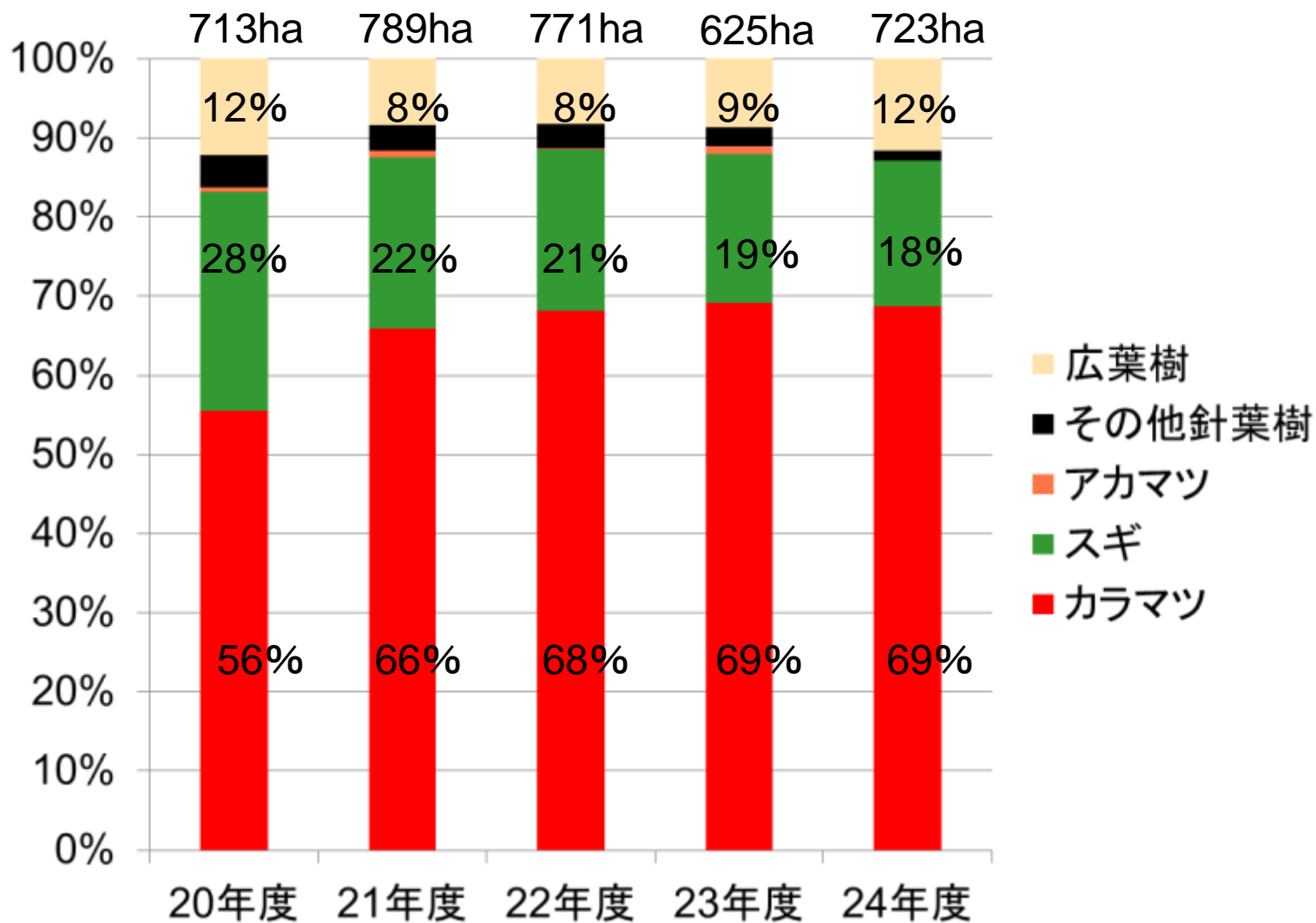
【民有林の樹種別面積割合】



②造林実績(H20~H24)



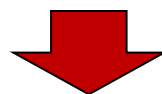
②造林実績(樹種別造林面積)



③課題(造林面積の確保について)

森林資源構成表の
伐採跡地面積等から推計

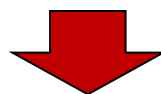
- 人工林伐採面積(推定) **約1,540ha/年**
- 再造林面積(過去5ヶ年の平均値) **約480ha/年**



再造林面積は伐採面積の3分の1

また、**H18年度末現在⇒H23年度末現在**

- スギ 面積1,978haの減(約400ha/年)
- カラマツ 面積1,301haの減(約260ha/年)



(出典：森林資源の現況(林野庁計画課))

現在の人工林面積を維持するにはさらに約660ha/年の造林が必要

③課題(コンテナ苗木の利用について)

岩手県の苗木生産者 約30名
苗木生産量 3,019千本

うちコンテナ苗木生産者 2名
コンテナ苗木生産量 64千本
(苗木生産量の約2.1%)

コンテナ苗木の実需要量は15千本
全苗木供給量 (2,407千本) の約0.6%

※需要者側ではコンテナ苗木の優位性が確認できないとして
積極的な供給要望はない状況

①低密度植栽の促進(森林整備事業の最低植栽本数の見直し)

◆補助要件の最低植栽本数を引き下げ

◆造林費削減により植栽を推進

樹種	これまで	改正後	備考
スギ	2,000本以上	1,000本以上	H22.8~
カラマツ	1,800本以上	1,000本以上	H22.8~

◆期待される効果

①スギを3,000本/ha植えから1,000本/ha植えにした場合

標準単価(税込)は約102万円/haで約65万円/haの減額

②カラマツを2,500本/ha植えから1,000本/ha植えにした場合

標準単価(税込)は約92万円/haで約34万円/haの減額

②コンテナ苗木の利用促進(森林整備事業による利用促進)

平成22年度から
「コンテナ苗木の補助導入に係る検討会」を開催

構成員：
県、岩手県山林種苗協同組合、岩手県森林組合連合会

成果(コンテナ苗木の補助対象化)

- ・スギ(H23.9~)
- ・カラマツ(H24.10~)
- ・アカマツ(H25.9~)

平成25年度から
「コンテナ苗木に係る意見交換会」として情報交換



②コンテナ苗木の利用促進(民有林の植栽実績と今後の課題)

コンテナ苗木植栽実績(H22~H24)

樹種	箇所数	面積
スギ	9箇所	4.18ha
カラマツ	16箇所	3.96ha
アカマツ	1箇所	0.10ha
コナラ	1箇所	0.32ha
計	27箇所	8.56ha



- ◆コンテナ苗木の利用を増やすためには、引き続きコンテナ苗木の優位性の検証を行い、需要者の理解を得ることが必要
 - 活着の優位性（枯損被害の回避、低密度植栽が可能）
 - 初期生長の優位性（下刈り回数の削減、低密度植栽が可能）
 - 植栽時期の優位性（伐採・地拵え・植栽の一体施工が可能）

③森林所有者や林業事業者への普及

◆現地機関による取組

- ①林業普及指導員による森林所有者への個別指導
- ②森林・林業活性化センターや林業振興協議会などの組織と連携し、低コスト林業の普及に向けた現地研修の開催

年度	研修会場数	件数内容(回数)	参加者数
H20	7会場	間伐(4)、作業道(3)	191人
H21	17会場	間伐(8)、造林(3)、作業路(6)	559人
H22	10会場	間伐(5)、造林(5)	344人
H23	18会場	間伐(11)、造林(5)、作業道(2)	412人
H24	17会場	間伐(6)、造林(9)、作業道(2)	527人

- ※ 間伐：搬出間伐、列状間伐などの研修
造林：コンテナ苗木の植栽などの研修
作業道：林内路網整備などの研修

おわりに

◆現状の課題

- ①低密度植栽及びコンテナ苗木の優位性の評価が安定していない（明確でない）ことなどから、森林所有者や林業事業者が積極的に取り組むまでには至っていないこと
- ②伐採・地拵え・造林の一体施工は、経験がある林業事業者が少ないこと
などが考えられる。

◆今後の取組

森林所有者や林業事業者が低コスト造林に取り組めるよう、引き続き研修等の開催によって、情報提供や技術の普及を行っていく。